



## スクール「メキシコ2010」

2013年以降の気候変動新枠組み交渉合意に向けたシリーズ勉強会

### 第9回：メキシコ・カンクン COP16 を前にポイントまとめ 「COP16 を前に」

WWFジャパン（2010年11月開催）

制作：WWFジャパン 気候変動プログラム  
2010年2月～2010年12月

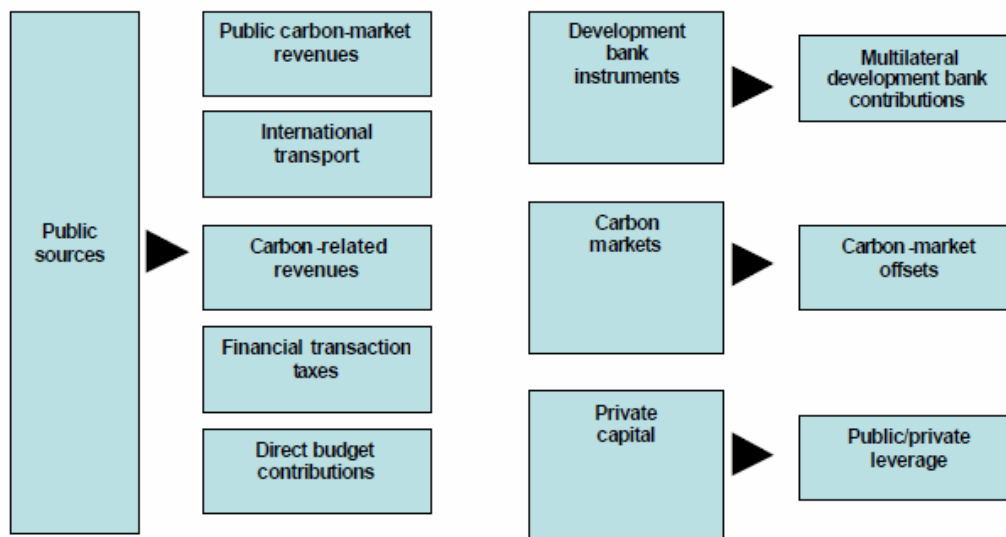
<http://www.wwf.or.jp/climate/>  
[climatechange@wwf.or.jp](mailto:climatechange@wwf.or.jp)

## カンクン COP16 を前に AWGLCA (条約 AWG) のポイントのまとめ

### 1) 現状

- 6月ボン会議：コペンハーゲン合意(138カ国賛同)の内容が交渉テキストに組み込まれ、40ページくらいに収まり、括弧がはずされた形でまとまりを持っており、議論が収れんしていくような建設的な雰囲気であった
- 8月ボン会議：先進国・途上国双方が主張を先鋭化、交渉テキストは再び70ページまで膨れ上がり、せっかく入り込んでいたコペンハーゲン合意の内容にも、再び括弧がつけられて、議論が後退
- 10月天津会議：合意が近かった論点まで、議論が蒸し返されて、括弧が2重、3重につけられてしまった。良くも悪くもすべての国が不満を持っていた(つまりどの国にとっても我慢を強いられる妥協の産物)であったせっかくのコペンハーゲン合意の論点は、すっかりテキストの中に埋もれてしまった。
- 短期資金について：コペンで約束された2012年までの短期資金は前進している。「ジュネーブ対話 9/2」にて短期資金の透明性を高めるために情報サイト [faststartfinance.org](http://www.faststartfinance.org) 設立( <http://www.faststartfinance.org/> )
  - ▶オランダ/UNDP/世銀によって設立。コスタリカ、コロンビア、デンマーク、ドイツ、インドネシア、マーシャル諸島、メキシコ、ノルウェー、イギリス、ベトナムの協力を得て、オランダ環境空間計画大臣 Ms. Tineke Huizinga が設立
  - ▶ウェブサイトの目的は、COP16において短期資金を一堂に会して、ドナー国の約束額、実施状況や受け取り国のプロジェクトの遂行状況などを、一目で比較検討できるようにすること
  - ▶フィゲレス事務局長、短期資金を”the golden key to Cancun”と呼ぶ
- 長期資金について：AGF (High Level Advisory Group on Climate Finance (気候変動の資金に関するハイレベルアドバイザリーグループ)の最終レポート発表(11/5)
  - ▶コペンハーゲン合意で示された2020年1000億ドルの資金を調達するための手段を検討する専門家会合。コペンハーゲンで提案され、国連バンキムン事務局長のリードで、2月8日に正式に発足。ノルウェーのストルテンベルグ首相とエチオピアのメレス首相が共同議長、ガイアナ共和国のジャグデオ大統領、その他ニコラス・スターン、ジョージ・ソロスなど実務家、有識者、中央銀行などが参加する。
  - ▶あくまでも専門家からのアドバイスという位置づけで、スケールや可能性を含めて革新的資金メカニズムを提示し、あとはCOPの交渉にゆだねる姿勢。直接支援を要求す

る途上国側の専門家と、民間資金動員に傾注する先進国側との意見が併記されている。  
➢ US\$20-25/CO2ton という炭素の価格付けを、2020年1000億ドル達成の基礎としている。



Report of the Secretary-General's High-level Advisory Group on Climate Change Financing  
(5 Nov.2010)

- 新しいグループ「野心的な行動のためのカルタヘナ・グループ」設立。すでに3回会合が行われ、インフォーマルに意見を交換している。進歩的な途上国と先進国が参加しており何らかの建設的な影響が及ぼせるか？（下表参照）

### カルタヘナ対話

参加国: アンティグア・バーブーダ、オーストラリア、バングラデシュ、ベルギー、コロンビア、コストリカ、エチオピア、フランス、ドイツ、ガーナ、インドネシア、マラウイ、モルディブ、マーシャル諸島、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ペルー、サモア、スペイン、タンザニア、タイ、東ティモール、ウルグアイ、イギリス、EU

#### 主な国の目標

国	目標	付記
エチオピア	2025年にカーボンニュートラル	化石燃料から再生可能エネルギーへ転換（特に水力、再植林）
サモア	2020年にカーボンニュートラル	化石燃料の削減、再生可能エネルギーへ転換
マーシャル諸島	2020年にCO <sub>2</sub> 排出を40%削減（基準年:2009年）	エネルギーの安全保障の観点から石油の輸入量を減らす、気候変動と戦う
アンティグア・バーブーダ	2020年に排出を4分の1削減（基準年:1990年）	
モルディブ	2020年にカーボンニュートラル	カーボンニュートラルの目標を再確認
コストリカ	2021年にカーボンニュートラル	カーボンニュートラルの目標を再確認、強固なMRV(測定/報告/検証)制度設立、カーボンニュートラルを目標にする国々と国際基準を設立

## 2) カンクン会議

- CP16, CMP6, SBI133, SBSTA33, AWGLCA13, AWGKP15 の6つの会合同時開催  
AWGLCA は、本来 COP15 で COP に報告をして終了する予定であったが、コペンで COP16 まで継続することが決定された。COP16 において COP にその結論を報告することになっている。

### 2.1) 議長シナリオノート

- バランスのある結果を求める
- 現状のテキスト整理
  - ◇ 交渉テキスト FCCC/AWGLCA/2010/14  
前回の天津会議のために用意された交渉テキスト。今回のカンクンにおける交渉テキストのベースとされている。
  - ◇ 参考テキスト FCCC/AWGLCA/2010/INF.1  
天津会議では、バリ行動計画に沿った形の4つのドラフティンググループが置かれ、テキスト作成を試みた。長期ビジョン、適応、先進国・途上国の排出削減の約束・行動（炭素市場、REDD+、対応措置、分野別アプローチ）、資金・技術移転・キャパシティービルディング。しかし、最終的には交渉したテキストの位置づけにも合意できず、INF ドキュメント（参考のためという意味）としてまとめられた。
  - ◇ 天津からの持ち越し文書：議長によるカンクン合意の要素についてのコンサルテーション報告（10/9）  
[http://unfccc.int/resource/docs/awglca/possible\\_elements\\_of\\_the\\_cancun\\_outcome.pdf](http://unfccc.int/resource/docs/awglca/possible_elements_of_the_cancun_outcome.pdf)
    - I. 共有のビジョン
    - II. 適応
    - III. 緩和
      - 1b(i) ・先進国の排出削減約束と行動
        - ・先進国の約束と行動のためのMRV
        - ・MRV の支援
      - 1b(ii) ・途上国のNAMA
        - ・途上国のNAMA のMRV
        - ・MRV の支援
      - 1b(iii) ・森林セクターの緩和への貢献の準備フェーズの行動
      - 1b(iv) ・農業やバンカー油を含む協力的なセクター別アプローチとセクター別の行動における一般的枠組み



for a living planet®

第9回スクール・メキシコ  
「カンクン COP16 を前にAWGLCA について」  
WWF ジャパン 小西雅子  
2010年11月19日

1b(v) ・コスト効率性を高め、緩和策を促進するため、市場の利用を含む様々なアプローチ

1b(vi) ・経済的・社会的対応措置

#### IV. 資金、技術とキャパシティービルディング

- ・長期資金
- ・新基金の創設とその設計のプロセス
- ・気候変動資金の一貫性と調整の改善
- ・2010年から2012年の短期資金
- ・技術執行委員会と気候技術センターネットワークを含む技術メカニズムの創設

- 天津会議において議長と締約国とのインフォーマルコンサルテーションでの確認として、3つのバランスと最終的な法的形式
  - 〔1〕 AWGLCA と AWGKP の2トラックの間のバランス、 AWGLCA 内のバランス = バリ行動計画のすべての項目のバランス、バリ行動計画の中のそれぞれの項目同士のバランス（詳細についてどの程度書き込むかのバランス）
  - 〔2〕 カンクンの結果は、将来の合意枠組みが法的拘束力を持つかどうか、どんな内容となるかななどを予断する形とはしない。
- AWGLCA のカンクンの結果は、LCA のすべての領域を網羅した一つのドラフト決定になることがよいと議長は考える。一つのドラフト決定に向かうことが、バランスの取れた結果を達成する努力を促すと信じる。
- ドラフト決定は、包括的だが余地が多くあるものであり、2010年にAWGLCAのすべての仕事を終えることはできないことを認識する。しかし今まで進めてきた漸進的な進捗は確保していきたい。残りの仕事は今後進めていかねばならない。しかしバランスのとれた包括的なパッケージの輪郭はカンクンにおいて見えると信じる。（para7）
- 前回と同じ4つのドラフティンググループ設置する。長期ビジョン、適応、先進国・途上国の排出削減の約束・行動（炭素市場、REDD+、対応措置、分野別アプローチ）、資金・技術移転・キャパシティービルディング。

## 2.2) 解説

コペンハーゲンでのラスムセン議長の議長ドラフトがメディアに抜かれて会議中に不信感を招いて失敗したことを踏まえて、議長国メキシコは非常に慎重。今のところ前回のようなドラフトペーパーを作っていないと強調。しかし何らかの会議の成果を強く求めている。2トラック路線が固いことを踏まえて、京都議定書第2約束期間を押してくる可能性ありと言われているが、まずは資金面での進展を図ると思われる。

一つのドラフト文書を目指す議長

バランスの取れたパッケージに対して、先進国と途上国の思惑は大きく違う。

先進国：主要な途上国の高い削減行動の国際的約束と MRV の確保（特に中国に対して）、森林減少防止や緩和・適応のための資金援助だけを先に進めない。途上国の行動と MRV の確保とバーター。

途上国：コペンハーゲン合意における自主的な目標の積み上げでは先進国ははるかに努力不足。米を入れた削減目標を引き上げること、京都議定書の法的拘束力のある形を維持して、先進国が努力を継続すること。資金援助の形を整えること。それとバーターで途上国の削減行動を行う。しかしあくまでも自主行動。国際的な MRV には難色。

コペンハーゲン合意の存在感が薄れていく中、一つの合意文書にまとまるか。

いかに森林減少や技術移転、適応など合意が近かった論点をドラフト文書に入れ込んで漸進的な前進を確定させられるか。